

## 社会に学ぶ「14歳の挑戦」の実施

校長 荒屋 誠

本校では7月の前半に「社会に学ぶ『14歳の挑戦』」を2年生で実施しています。これは、実際に仕事をしている方に接し、自ら体験することを通して、働く意義や将来の自分について考えたり、広く社会に目を開く機会としたりするために5日間実施するものです。

1年生では3学期に、次年度の「14歳の挑戦」に向けて職業調べを行ったり、働くことの意義について考えたりする学習を行います。3年生になると2年生の「14歳の挑戦」の体験をもとに、自分の将来の生き方について考えたり、自分が将来就きたい職業を考えたり、それを踏まえた卒業後の進路について考えたりしています。2年生で行う「14歳の挑戦」は、3年間の一貫した指導の中に位置付けられています。

毎年、生徒たちがお世話になっている職場を、私も学年の教員と訪問しています。保育園の子供たちに優しく接したり、とても丁寧な言葉遣いで接客したり、黙々と作業に取り組んだりしている生徒たちを目の当たりにします。中には、学校では見せないような良い表情で生き生きと仕事をしている生徒を見かけることもあります。社会に出て学ぶことの大切さを改めて痛感する瞬間です。

この場をお借りし、ご多用中にもかかわらず本校の生徒たちを受け入れてくださった各店舗、事業所、官公庁の皆様方に心から感謝申し上げたいと思います。

## ◆◆◆ 1学期のアクションプランの取組について ◆◆◆

**アクションプラン1** 主体的に学ぶ生徒の育成

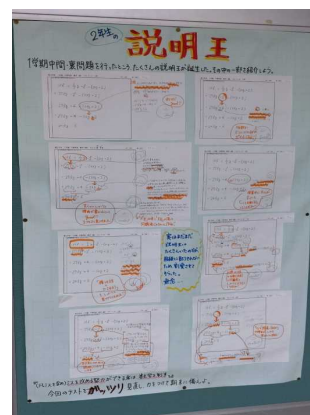
アクションプラン1のキーワードは、「主体的に学ぶ生徒の育成」です。

昨年度に引き続き「「分かる」「できる」と実感できる授業」を行いながら基礎・基本の定着を目指しつつ、「学んだことを使える」喜びを感じられるような「問題解決的な学習課題」を工夫した授業づくりを行いました。

また、個人でじっくり課題に取り組んだり調べ学習を行ったりする場面、友だちと意見や考えを出し合い考えを深める場面のバランスを取りながら、タブレット端末やデジタル教科書等のICTを効果的に活用する授業づくりにも心がけました。

さらに、レポートや自主学習ノート等を掲示することで、様々な気づきや学習方法を互いに学び合えるような工夫をしました。

生徒のアンケートでは、概ね良好な結果が表れていますが、今後は、授業と家庭学習のつながりにも目を向け、家庭での学習習慣がしっかりと身に付くよう支援していきたいと考えています。



レポートの掲示



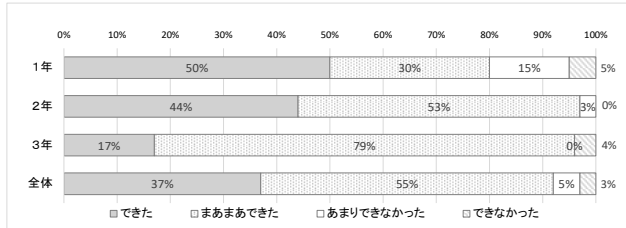
個人で問題に取り組んでいます



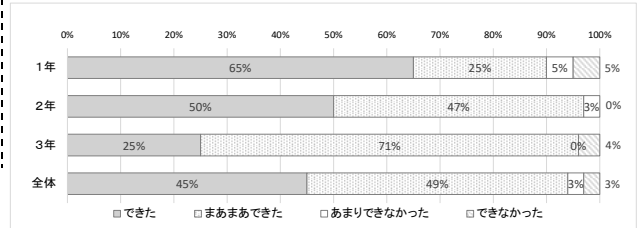
学んだことを生かして発表しています

【学校評価アンケート（生徒）の結果】

1 授業では、課題に対して自分で考え、進んで取り組むことができた。



2 授業では、学び合いを通して「分かった」「できた」と実感できた。



アクションプラン2 認め合い、高め合う生徒の育成

アクションプラン2のキーワードは「認め合い、高め合う生徒の育成」です。生徒同士が関わり合いの中から、共に高め合う集団づくりを心がけています。生徒会活動では、「完全燃焼～生徒一人一人の意見をもとに、明るく楽しい学校を目指す～」を生徒会テーマに掲げ、自分たちの手で企画・運営する活動を展開しています。また、今年も湖南小児童との小中連携活動を進め、「あいさつ運動」等の活動を進めています。

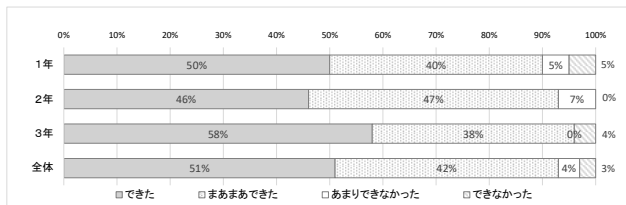
また、学校行事のあとや学期末に友だちの「よいところみつけ」を行い、活躍を賞賛する場を設定しています。互いのよさを認めあうことで、温かな学級・学校づくりを目指すとともに、生徒一人一人の自己肯定感を高めていきます。

今年度は、生徒が自己を見つめ、人間としての生き方について考えを深められるよう「特別の教化 道徳」の授業づくりにも工夫をこらしています。今学期は学級担任以外が授業を行うローテーション道徳を行いました。今後も生徒の心を耕す大事な時間ととらえ、授業づくりを進めていきます。

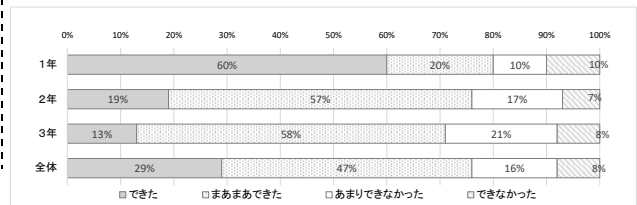
2学期は運動会、学校祭等大きな学校行事が予定されています。体験的な活動を通して、生徒一人一人のよさや可能性を認めながら、自ら学び考える力の育成を心がけていきます。

【学校評価アンケート（生徒）の結果】

3 友達や集団のために自分ができることをすすんで実践できた。



4 自分には、よいところがあると思うことができた。



生徒総会



アルミ缶回収



合唱練習

